

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	文化財公開・活用事業			事業番号	12-103
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	教育部	谷亀 博久	教育総務課歴史文化担当	立花 実	

計 画 (Plan)

総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち	
		基本政策	3	人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり	
		施策展開の方向	2	いつまでも学び生きがいを持つまちをつくる	
		施策	12	歴史と文化遺産の継承	
予算事業名	文化財保護啓発活動費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	実施する規定はない
事業開始年度	開始年度	平成25年度以前	～	終了年度	—
関連法令等	文化財保護法、神奈川県文化財保護条例、伊勢原市文化財保護条例				
国・県の計画等	かながわグランドデザイン実施計画 にぎわい拠点づくり(大山地域)			計画期間	
関連個別計画	伊勢原市教育振興基本計画、伊勢原市歴史文化基本構想			計画期間	平成22年度～平成29年度
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	平成30年に文化財保護法が改正され、従来の調査研究・保存という面だけでなく、資料の公開や観光事業での活用が強調されてきています。市の文化財保護条例や歴史文化基本構想でも、調査、保存とともに活用を重視しています。市民の関心やニーズの高まり、各種の事業への参加も増加傾向にあります。				
目的 (何をどうしたいのか)	観光部局等と連携をとりながら、文化財、文化遺産をより積極的に活用することで、地域への関心を高めるとともに、新たな地域資産の創造、それを利用した地域の活性化を図っていきます。文化財の保護についても、地域全体で文化財を保存・継承していくための人づくり、仕組みづくりを目指します。				
主な対象 (誰・何を対象に)	市民及び市への来訪者				
事業内容 (手段、手法など)	・貴重な文化遺産を適切に継承していくため、文化財の保護、啓発活動を展開するとともに、そうした活動を支える人材育成を進めます。				
事業行程	項目	年度			
		28年度	29年度		
	散策コース設定	標柱・解説板設置		標柱・解説板設置	
	文化財の普及・啓発	実施		実施	
目 標	【指標名】	【現状】	年度		
			28年度	29年度	
	歴史・文化財ふれあいウォークの実施回数	2回	2回	2回	

 事業実施 (Do) へ

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	地域で文化財を保護、継承していくにあたっては、文化財に携わる人材育成が重要な方策です。そのために、カリキュラムの見直しを行った上で、ボランティアの養成を継続していきます。また、活動が活発となっている文化財関連市民団体の活動に対する支援、連携事業の推進を行います。こうした取組により、市民活動の活性化と文化財保護意識の浸透を図っていきます。			
実施方法 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> すべて直接実施 <input type="radio"/> 左記以外			
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者	
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先	
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容	
実施結果	項目	年度		
		28年度	29年度	
	散策コース設定	解説板の設置	解説板・標柱の設置	
	文化財の普及・啓発	実施	実施	
実施した取組の内容	関係各機関と連携を図りながら、普及事業として文化財ウォーク、展示会、文化財特別公開等を実施しました。また、人材育成として、歴史解説アドバイザー養成講座第5期生初級講座を開催し、環境整備としては、文化財の解説案内板・標柱を設置しました。			
目標の達成状況	【指標名】	【現状】	年度	
			28年度	29年度
	歴史・文化財ふれあいウォークの実施回数	2回	1回	2回

コスト	年度		28年度 実績				29年度 実績					
	事業費合計 (a)			327	千円		293	千円				
内訳	国県支出金 ①			0	千円		0	千円				
	地方債 ②			0	千円		0	千円				
	その他特財 ③			0	千円		0	千円				
	一般財源 (a)-①-②-③			327	千円		293	千円				
国県支出金の内容												
その他特財の内容	受益者負担		<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		前回の改定時期							
	その他											
人件費	正規職員		1.00	人	8,650	千円	1.00	人	8,730	千円		
	その他の職員		0.00	人	0	千円	0.00	人	0	千円		
	人件費合計 (b)		1.00	人	8,650	千円	1.00	人	8,730	千円		
トータルコスト (a)+(b)			8,977	千円		9,023	千円					
単位当たりコスト	対象数	定義	文化財活用事業の参加者数				単位	文化財活用事業の参加者数				単位
		対象数	5,319	人		5,680	人					
	総事業費／対象数		1,688	円		1,589	円					

↓ 評価 (Check) へ

評 価 (Check)

進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	普及啓発事業の歴史・文化財ふれあいウォークは、予定どおり2回開催しました。学校への出前授業等の定例的な事業に加え、現場見学会や新たに指定文化財となった大山こまの製作実演など体験的な事業を実施しました。この他、日本遺産に関する展示会、かながわ考古学財団との共催による発掘調査現場の公開等も実施し、計画どおりの参加者を得ました。
実施水準 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	A	他都市事業内容等	歴史解説アドバイザーの養成や県、財団、民間組織との連携による公開活用事業は、他市に先駆けて実施している事業です。特に調査が進んでいる広域幹線道路建設に伴う発掘調査現場の公開に加え、市指定文化財となった大山こまの製作実演等、新たな事業を実施し、事業の幅を広げることができました。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	文化財の見学会、展示会、ウォーク等は市外からも参加を得ています。学校現場への出前授業では、地域素材を活用した歴史授業を行っています。また、日本遺産に関連する事業は、市内外に対して伊勢原への関心、知名度を高めることにつながっています。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	県、財団等の他組織、市民団体との連携により、それぞれの専門性を生かしながら事業を実施しました。養成した歴史解説アドバイザーが各種団体で中心的な働きをされており、文化財の活用事業を推進する上で、大きな力となっています。


 取組の改善 (Action)へ

取組内容の改善 (Action)

事業推進上の課題	日本遺産協議会、歴史文化を活かした地域づくり協議会で実施していく文化財の公開・活用事業との調整を図り、補完する形で事業を展開していく必要があります。 人材育成事業については、カリキュラムを見直した上で、内容の充実を図っていく必要があります。 事業の実施に際しては、商工観光課のほか、関係部局、地域の活動団体、商業事業者とも連携を図る必要があります。
次年度以降の取組の方向性	多くの方々が市域に所在する文化財の魅力を感じていただける環境づくりを図るため、文化財所有者、調査組織等との連携を図り、参加者のニーズを意識しながら、史跡巡り、見学会、講演会等の活用事業を推進していきます。 現地を訪れる人々の文化財への理解を深めるため、文化財の案内板等の充実を図ります。 訪問者への対応に関わる人材育成を継続していくとともに、文化財に関わる市民団体と連携した事業展開を図っていきます。
所管部長による総評	日本遺産協議会、歴史文化を活かした地域づくり協議会、観光部局、県、関連する市民団体や調査組織と連携し、また、養成した歴史解説アドバイザーの協力を得ながら、より魅力的で集客力の高い事業を展開していくことが重要です。